

中学校第2学年国語科学習指導案

1、単元名

情景を写しとれ 人間を映し出せ ～タブレット端末を利用した、写真と俳句の作品作り～

2、単元の目標

(1) 国語科としての目標

- 身の回りの自然を見つめ、情景を写しとることができる。
- 俳句の手法を学び、表現の効果を考えて詠むことができる。

(2) 汎用的スキル

- 身の回りの自然を見つめ、季節の移り変わりや、それを感じ取る人間性をとらえ、文学作品にする(俳句に詠む)ことができる。(感性・表現・創造の力)

(3) 態度・価値

- 身の回りの環境、自分自身を見つめることで、それを愛おしむ心を育む。(愛する心)
- 他者の作品を鑑賞し、感想を述べたり、評価したりすることで、他者を尊重する心、他者から学ぶ心を育む。(他者に対する受容・共感・敬意)

3、生徒の実態

11月、文化系の部活や生徒会役員などが代替わりし、中学2年生が学校の中心となっていく。先輩への気遣い、後輩の指導、そして自分自身の進路について、悩みが大きくなる時期でもある。毎日が忙しく、身の回りの自然の変化にも気づかぬほどだ。本校は大学構内にあり、自然環境に恵まれているにもかかわらずだ。俳句などというと、理解するのに難しいものとする生徒が多い。宿泊行事では、短歌や俳句を作らせているが、「楽しかった」「疲れた」など、気持ちの表現をそのまま書いてしまう。また、文章や文字を書くこと自体に抵抗感のある生徒もいる。

2年D組の生徒は、ユニークな発想や表現をする者が多く、また、男女にかかわらず意見を交換したり協力したりすることができる。IT機器に通じた生徒も多い。

4、単元について

①教科から見た特性

教科書では、中学3年生で俳句、2年生で短歌を取り上げている。しかし、一瞬の景色を写真に撮るように詠む俳句の方法は、スマートフォンやタブレット端末で写真を撮ることに慣れている生徒には親しみやすい。そこで、タブレット端末を利用して、カメラ機能で写した写真に俳句を書き込み、プリントアウトする方法を考えた。また、それを廊下に展示し、句会の方法で投票することで、相互交流、相互評価、また友達の見えた景色、感じた気持ちを読み取ることができる。何より、国語の苦手な生徒でも楽しみながら創作に取り組むことができる。

②汎用的スキルや態度・価値育成の観点から見た特性

いい写真を撮ろうとすれば、必ず、景色をじっと見ることになる。また細部に注目する生徒、構図を考える生徒もいる。そして、なぜその景色を撮ったのかを五七五で表そうとすると、長い言葉を推敲して短くせざるを得ない。すると、その写真を撮った自分自身を見つめることになる。また、友達の作品を見ると、なるほどと思わされることが多く、ごく自然に共感したり、敬意をもったりすることができる。創作時には、4人に1台しかタブレット端末がなかったが、そのことで、どこを撮るか景色を評価したり、撮った写真を見せ合ったりしながら、高め合うことができた。

5、単元計画と資質・能力を育成する主な手立て(全4時間 本時2/4時間)

	学習活動	関連する主な資質・能力	資質・能力を育成する主な手立て
第1次 (1時間)	・正岡子規、中村草田男の作品4句を比較し、俳句の特徴(季語・句切れ)を知る。	○感性・表現・創造の力	○俳句に関する知識を持たせる ○俳句に対する興味を持たせる
第2次 (2時間)	・4人1グループでタブレット端末をもち、校外(大学構内)を歩きながら、写真を撮り、その景色を俳句にして書き込む。 ・プリントアウトした作品を台紙に貼り、友達と見せ合う。	○感性・表現・創造の力 ○愛する心	○協働が生まれやすい活動の設定 ○可視化ツールの用意 ○他者との学び合いの設定
第2次 (1時間)	・貼りだされた作品を読み、感想を書く。	○感性・表現・創造の力 ○他者に対する受容・共感・敬意	○他者との学び合いの設定

7、本時の学習指導

(1) 本時のねらい

- ・身の回りの自然を見つめ、気に入った景色・事物を写真に撮ることができる。
- ・自分がなぜその写真を撮ったのか、自分自身の心を見つめ、俳句にすることができる。

(2) 本時の展開

時間	○学習活動 ・ 予想される児童の反応	◇資質・能力を育成する主な手立て ◆評価
導入 5分	情景を写しとれ 人間を映し出せ ○前時の学習を振り返り、情景の捉え方を確認する。 ・「赤蜻蛉 筑波に雲もなかりけり」って、初句切れなのかな、句切れなしなのかな。 ・句切れなしだと、筑波山の大きさと、さらに広い空と、対比して赤蜻蛉が見えてくる。 ・「万緑の中や吾子の齒生え初むる」って、すごく壮大な感じがするけど、作者が見ているのは子どもなんだな。 ・でも万緑という言葉から、初夏の生命力を感じて、それから、子どもの成長を喜んでいる感じがする。	◇俳句に対する興味を持たせる。(感性・表現・想像の力) 前時で学んだ正岡子規・中村草田男の作品を振り返り、学んだことを元に、左の作品について考える。 「句切れ」があることによって、作者が何を見て、何を感じているかが読み取れることを知り、自分でも作ってみたいという気持ちをもたせる。 ・「鶏頭の十四五本もありぬべし」って、何が言いたいのかな。 ・「降る雪や 明治は遠くなりけり」って、明治と雪とにどういう関係があるのかな。 ◆提示された俳句について、区切りに注目しながら、自分なりの鑑賞をすることができる。
展開 40分	○4人1グループでタブレット端末をもち、校外（大学構内）を歩きながら、写真を撮り、その景色を俳句にして書き込む。(一人一作品作る) ・人物にポーズをとらせて、写真を撮ろうとするが、ありのままにあるものを撮るようにする。自然に写り込んでしまった場合はよいが、必ず写った本人に了承を得る。 ・どこで撮影するかは、グループで話し合って決める。 ・余裕があれば、キーボード機能や描画機能を使って、写真に直接俳句を書き込む。できない場合は、プリントアウトしてから、ペンで書き込む。 ・タブレット端末の使い方が分からない場合は、分かる生徒に教わる。	◇4人で行動することによって、話し合いの場をもたせる。また、なかなか作れない生徒は、友達の作品を参考にしながら、自分の作品を作らせる。(協働が生まれやすい活動の設定・他者との学び合いの設定) ◇先に写真を撮ることで、自分が感動した景(作品にしたい景色)が明確になる。(可視化ツールの用意) ◆身の回りの自然を注意深く見つめ、写真を撮ることができる。 ◆友達と協力して活動することができる。
結末 5分	○教室に戻り、写真を決定し、俳句を書き込む。できていない場合は、俳句を完成させる。	◇グループで作品を見せ合う。 ◆自分が切り取った景色を五七五の俳句にすることができる。

●記録映像 有、(生徒の作品)

